

# 新春寄稿

## 飛行船が歌ったもう一つの「遠野物語」



も出来ない縁がありました。取引先の社長さんが遠野

「遠野物語」といえば、大半の方が、柳田國男の『遠野物語』を最初に思い浮かべることでしよう。しかし、私にとつて「遠野物語」は、飛行船が歌った曲になるのかもしれない。

フォークソング世代の方ならご存知でしょうが、早稲田大学在学中にデビューし、わずか3年で解散したグループ。時刻表の地図を指でなぞってゆくと」と始まる歌詞に惹かれたのは、ちょうど高校三年の頃だったでしょうか。大学受験で机にか

元メンバーが経営する印刷会社で本を製作

祥伝社代表  
取締役社長

辻 浩明氏(56)

長です」と謙遜されていましたが、これには驚きました。私が大好きだった曲を

遠野にある「ふるさと村」がその歌っていた人が目の前にいたのですから。しかも『蝸ノ記』を印刷していたのだと萩原印刷さんの社長だったのです。

想像していた以上に遠野は素晴らしい場所でした。緑が深く濃い森を抱えた山々、カッパ淵や曲がり家も良かったのですが、私には、歌詞に出てくる福泉寺と笛吹峠が

また民話のふるさとへ旅に出たい

遠野といえは、もうひとつ想像と考えています。

